

## 2010年1月の東北地方の天候 【1月の特徴】

○寡照

○月の中頃の低温、月の後半の高温

### (1) 2010年1月の概況

月の中頃までは、冬型の気圧配置となる日が多く、東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多くかった。その後は、冬型の気圧配置は長続きせず、東北太平洋側は天気が数日の周期で変化したが、東北日本海側は気圧の谷の影響を受けやすく曇りや雪または雨の日が多くかった。また、月の中頃は強い寒気が南下して低温となったが、その後は南よりの暖かい空気が入り高温となるなど気温の変動が大きかった。

月平均気温は東北北部で平年並、東北南部で高い。月降水量は東北北部で多く、東北南部で少ない。月間日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で少ない。降雪の深さの月合計平年比は東北北部で76%と少なく、東北南部で39%とかなり少ない。

### (2) 各旬の天候経過

**上旬**：この期間、冬型の気圧配置となる日が多く、東北日本海側や東北太平洋側北部では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側南部では晴れの日が多くかった。なお、1日から2日にかけては冬型の気圧配置が強まり、東北日本海側を中心に大荒れの天気となり、秋田県や岩手県で強風による被害が発生し、5日から6日にかけては日本海と三陸沖を低気圧が発達しながら北東に進んだため、秋田県と宮城県で強風による被害が発生した。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北北部でかなり多く、東北南部で平年並。日照時間は東北地方で平年並。

**中旬**：期間のはじめと終わりは低気圧の影響を受けて、東北北部を中心に曇りや雪または雨の日が多くたが、東北南部は晴れた所もあった。期間の中頃は強い寒気が南下して冬型の気圧配置が続き、東北日本海側は雪の日が多く、東北太平洋側は沿岸部を中心におおむね晴れた。また、期間の中頃は低温、終わりには南よりの暖かい空気が入り高温となるなど気温の変動が大きかった。なお、13日は低気圧が東北地方を通過し、その後冬型の気圧配置が強まった影響で、各地で大荒れの天気となり、山形県や福島県で強風による被害が発生した。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北北部で多く、東北南部で少ない。日照時間は東北地方で少ない。

**下旬**：期間のはじめは冬型の気圧配置となり、東北日本海側は曇りや雪、東北太平洋側は沿岸部を中心におおむね晴れた。期間の中頃からは冬型の気圧配置は長続きせず、東北太平洋側は天気が数日の周期で変化したが、東北日本海側は気圧の谷の影響を受けやすく曇りや雪または雨の日が多くかった。また、南よりの暖かい空気が入り気温は高くなかった。

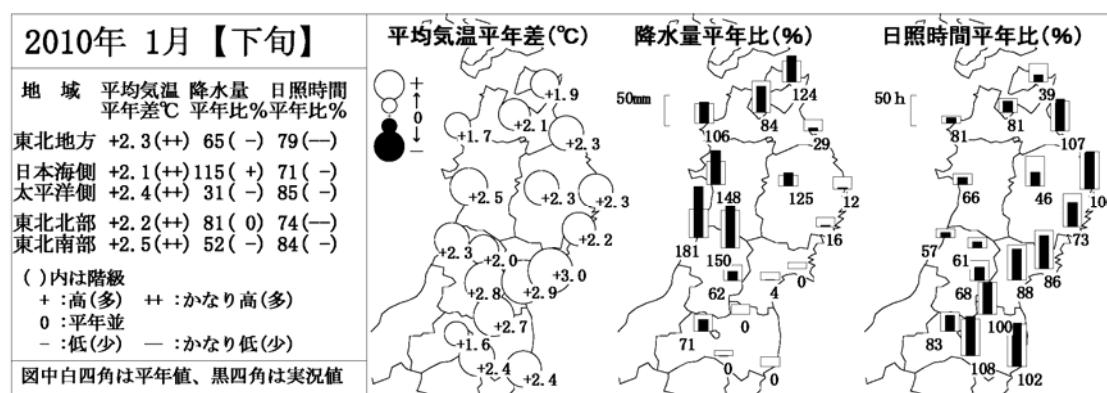
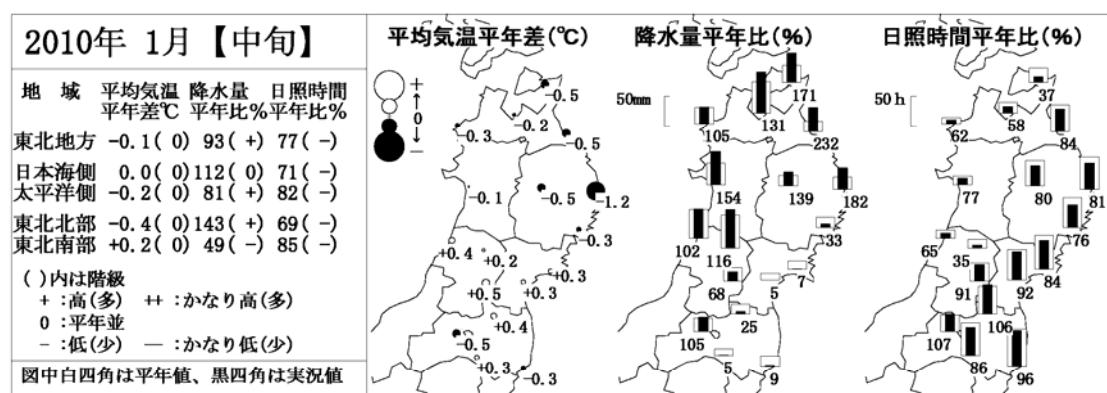
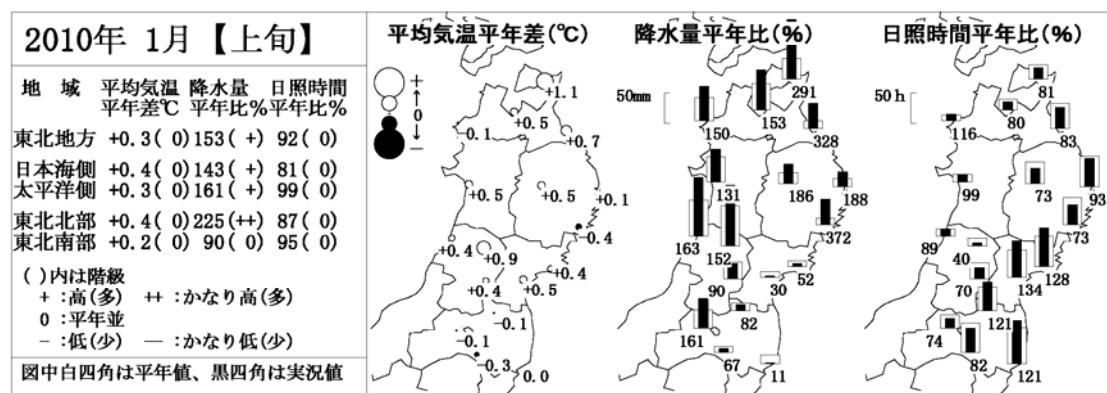
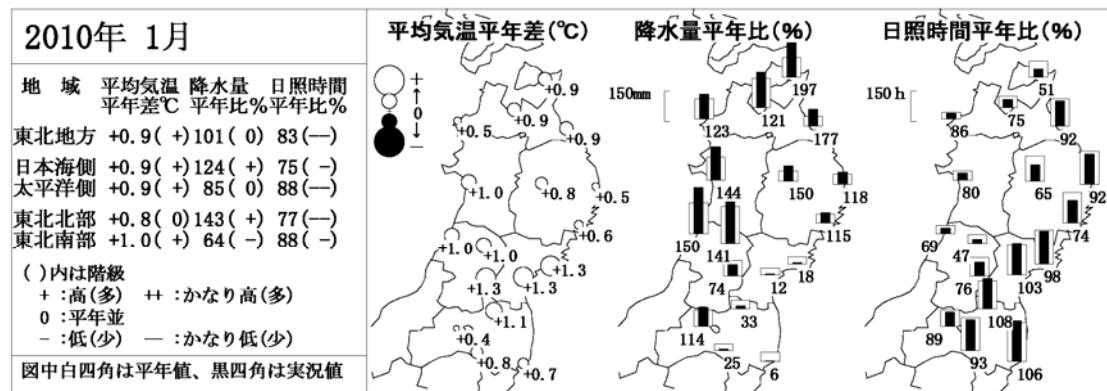
平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で少ない。

(注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区気象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2010年1月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

#### (4) 2010年1月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差)		階級	降水量(平年比)		階級	降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)		階級	降雪深さ(平年値)		階級	最深積雪(平年値)		階級
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			(h)	(%)		(cm)	(cm)		(cm)	(cm)	
青 森	-0.5	(+0.9)	+	175.5	(121)	+	23	42.3	( 75)	-	203	( 250)	-	98	( 86)	+
深 浦	0.1	(+0.5)	○	119.5	(123)	+	21	26.8	( 86)	○	130	( 123)	○	38	( 31)	+
む つ	-0.7	(+0.9)	+	189.0	(197)	+*	23	39.6	( 51)	-*	187	( 175)	○	74	( 47)	+
八 戸	-0.3	(+0.9)	+	85.5	(177)	+	10	123.9	( 92)	-	57	( 95)	-	35	( 18)	+
秋 田	0.9	(+1.0)	+	164.5	(144)	+*	26	35.6	( 80)	-	114	( 142)	-	21	( 31)	-
盛 岡	-1.3	(+0.8)	○	76.0	(150)	+	13	80.6	( 65)	-*	94	( 106)	-	34	( 27)	+
大 船 渡	1.3	(+0.6)	○	50.0	(115)	+	7	109.9	( 74)	-*	6	( 23)	-*	3	( 7)	-
宮 古	0.7	(+0.5)	○	62.0	(118)	○	7	150.3	( 92)	-	24	( 43)	○	17	( 12)	○
仙 台	2.8	(+1.3)	+	4.0	( 12)	-*	2	155.7	( 103)	○	1	( 29)	-*	1	( 11)	-*
石 卷	1.8	(+1.3)	+	6.0	( 18)	-	2	164.0	( 98)	○	1	( 13)	-*	1	( 8)	-*
山 形	0.8	(+1.3)	+	55.5	( 74)	-	17	68.5	( 76)	-*	79	( 163)	-*	18	( 37)	-*
新 庄	-0.3	(+1.0)	+	255.0	(141)	+*	26	20.2	( 47)	-*	245	( 283)	-	98	( 97)	○
酒 田	2.5	(+1.0)	+	228.5	(150)	+*	27	27.5	( 69)	-	49	( 138)	-*	6	( 27)	-*
福 島	2.5	(+1.1)	+	14.5	( 33)	-*	4	147.7	( 108)	+	24	( 86)	-*	13	( 18)	-
若 松	-0.3	(+0.4)	○	92.5	(114)	+	19	71.8	( 89)	-	139	( 185)	-	38	( 44)	○
白 河	1.0	(+0.8)	+	7.5	( 25)	-	2	150.4	( 93)	-	15	( 58)	-*	8	( 14)	-
小 名 浜	4.3	(+0.7)	+	3.0	( 6)	-*	2	201.1	( 106)	+	( )	( )	( )	( )	( )	( )

(注) 1. 平年値は1971～2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1971～2000年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に\*を付加した。この場合には

かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

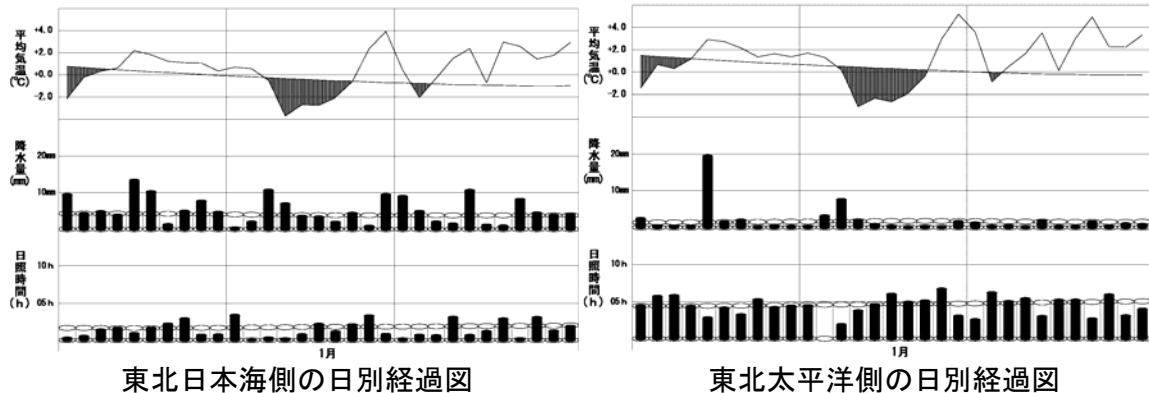
と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に)や]がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

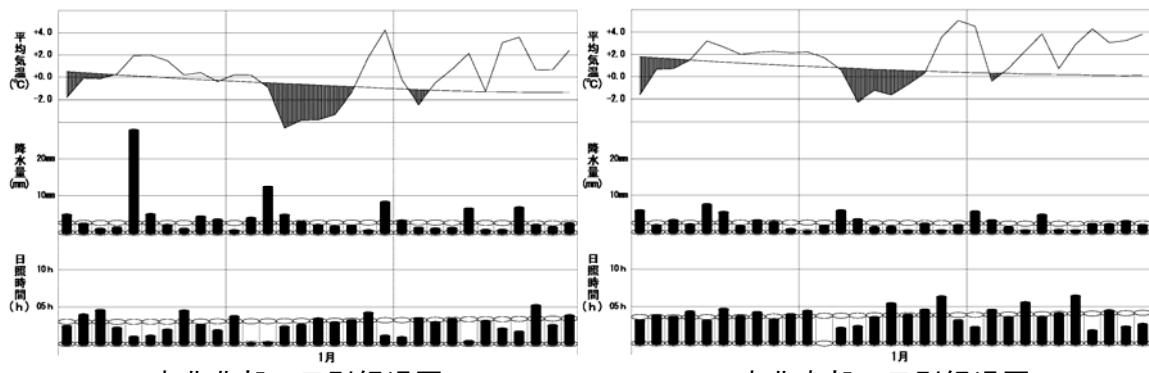
なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

### (5) 2010年1月の日別経過図



東北日本海側の日別経過図

東北太平洋側の日別経過図



東北北部の日別経過図

東北南部の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

### (6) 2010年1月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

3位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新

3位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量	平年比	これまでの最大	開始年	平年値
		mm	%	mm (西暦年)		mm
2	むつ	189.0	197	220.5 (2000)	1935	96.0

月降水量少ない方からの順位更新

順位	地点名	降水量	平年比	これまでの最小	開始年	平年値
		mm	%	mm (西暦年)		mm
2	仙台	4.0 =	12	1.5 (1985)	1927	33.1

月間日照時間多い方からの順位更新  
3位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
1	むつ	39.6	51	46.2 (2008)	1935	77.0
2	新庄	20.2	47	19.3 (1987)	1958	43.1
3	盛岡	80.6	65	69.0 (1993)	1924	124.0

降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新  
3位以内はなし

月最深積雪大きい方からの順位更新  
3位以内はなし

### (7) 2010年1月の循環場の特徴

500hPa 高度の月平均では、日本の東は負偏差、東シナ海から日本海は正偏差となり、日本付近は東谷傾向となった。

東北地方は、東北北部を中心に寒気や気圧の谷の影響を受けて、曇りや雪または雨の日が多く、日照時間が少なかった。

